

○ 建設業等の記入方法について

建設業等で県内に複数の排出場所がある多量排出事業者で、次のようなケースの場合の(第2面)の記入方法は下のとおりです。

前年度、神戸市、三田市、宝塚市及び丹波篠山市で、がれき等の排出実績があった場合

- ① 神戸市内の工事現場で、がれきを1200t 排出。
- ② 宝塚市内の工事現場で、がれき 1,500t、木くず 300t を排出。
がれき 1,500t、木くず 300tを中間処理業者へ再資源化(破碎処理)を委託。
- ③ 三田市内の工事現場で、がれき 300t、木くず 700t を排出。
がれき 300t、木くず 700tを自社処理施設で再資源化(破碎処理)。
- ④ 丹波篠山市内の工事現場で、がれき 300t、建設系混合廃棄物(安定型)50t を排出。
がれき 300tを中間処理業者へ再資源化(破碎処理)を委託。
建設系混合廃棄物(安定型) 50tを最終処分業者へ埋立処理を委託。

① → 神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市での多量排出については、各市ごとに1,000t以上(特管は50t以上)であれば報告が必要です。報告先も各市になります。本ケースの場合、①の神戸市分は、書類一式を神戸市へ提出ください。

②～④ → 廃棄物の種類ごとに集計して、廃棄物の種類ごとに第2面を作成してください。県民局の地域ごとに分ける必要はありません。県管轄地域の分をまとめて、県へ提出してください。

がれき： 宝塚市 1,500t、三田市 300t、丹波篠山市 300t を合計し、処理方法別に記載(例1)

木くず： 宝塚市 300t、三田市 700t を合計し、処理方法別に記載(例2)

建設系混合廃棄物(安定型)： 丹波篠山市 50t を処理方法別に記載(例3)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類： **1500 がれき類**) 事業者コード： 28JS00×××× 地域コード： 22(阪神北)
28(丹波)

(事業者コード(28Jで始まる全10桁コード)が不明の場合、事業所名称を記入ください。)

例1

不要物等発生量

有償物量

排出量

(単位:t)

① 2,100

② 自ら直接再生利用した量

品目ごとに1枚作成してください。

0

③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量

0

④ 自ら中間処理した量

300

排出事業場の所在地の地域コードを記入してください。(コード表参照)
排出場所が複数地域の場合は、すべて記載してください。

⑥ 自ら中間処理した後の残さ量

300

⑦ 自ら中間処理により減量した量

0

⑧ 自ら中間処理した後再生利用した量

300

⑨ 自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量

0

⑩のうち再生利用業者への処理委託量

⑫ 1,800

⑩のうち熱回収認定業者への処理委託量

⑬ 0

⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量

⑭ 0

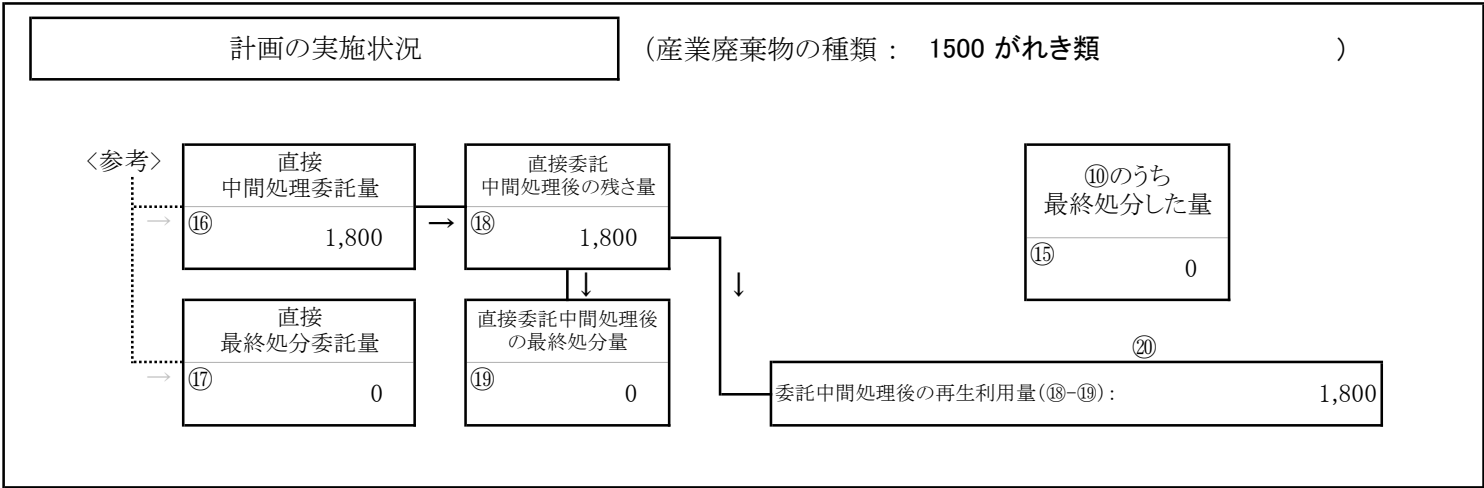
⑩ 直接及び自ら中間処理した後の処理委託量

⑩ 1,800

⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量

⑪ 0

項目	実績値
① 排出量	2,100
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	300
⑤ 自ら熱回収を行った量	0
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0
⑩ 全処理委託量	1,800
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0
⑫ 再生利用業者への処理委託量	1,800
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	0
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0



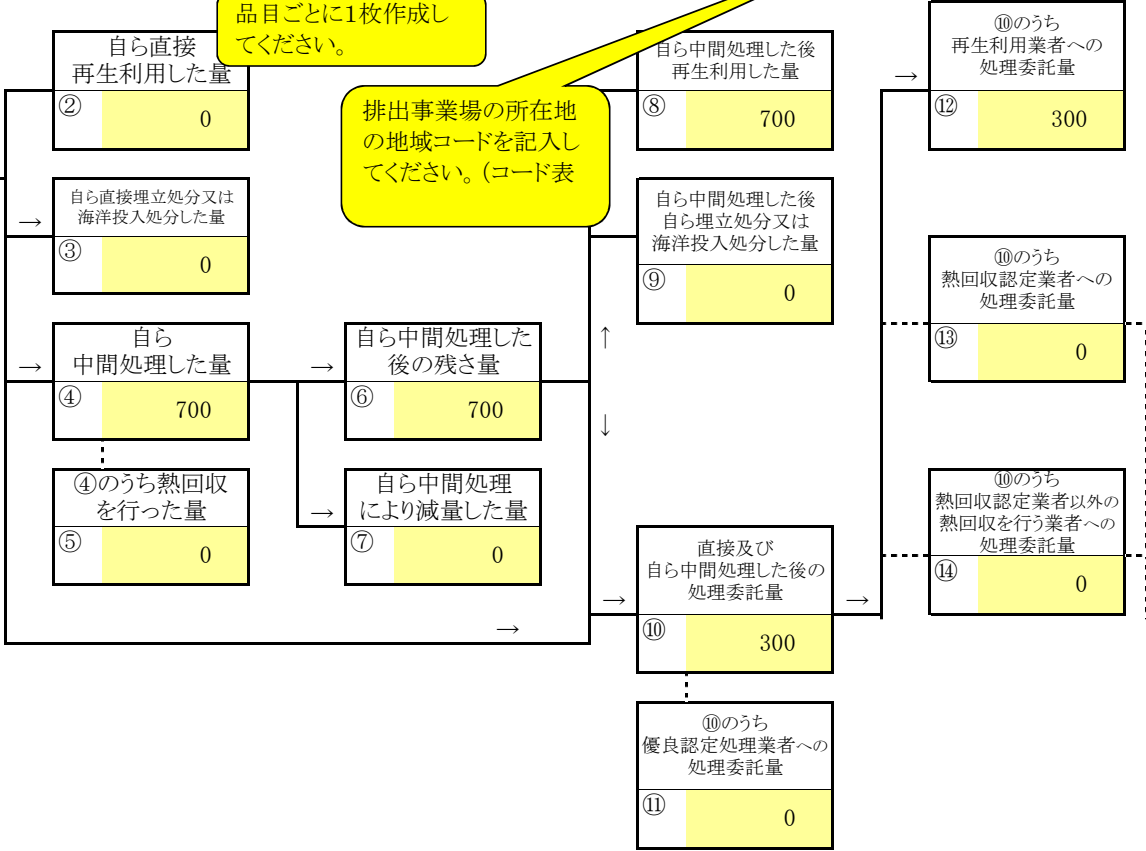
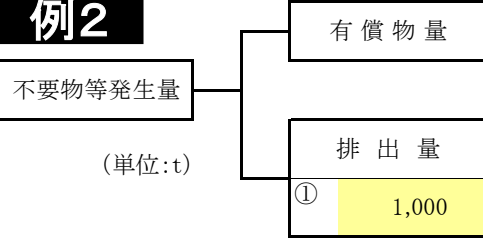
(第2面の2)

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類： **0800 木くず**) 事業者コード： 28JS00×××× 地域コード： 22(阪神北)

(事業者コード(28Jで始まる全10桁コード)が不明の場合、事業所名称を記入ください。)

例2



項目	実績値
① 排出量	1,000
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	700
⑤ 自ら熱回収を行った量	0
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0
⑩ 全処理委託量	300
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0
⑫ 再生利用業者への処理委託量	300
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	0
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類： 2010 建設系混合(安定型)) 事業者コード： 28JS00×××× 地域コード： 28(丹波)

(がれき類、陶磁器くず) (事業者コード(28J)で始まる全10桁コードが不明の場合、事業所名称を記入ください。)

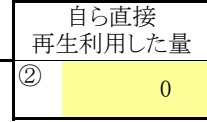
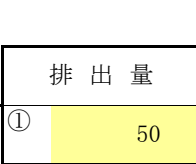
例3

不要物等発生量

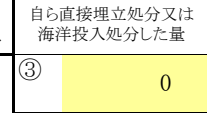
(単位:t)

有償物量

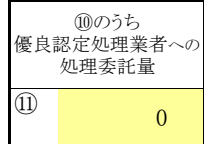
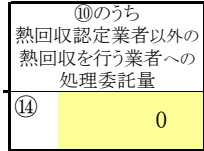
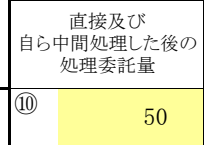
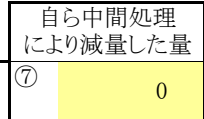
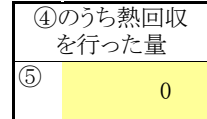
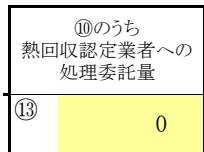
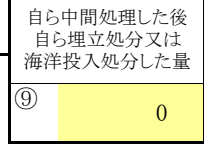
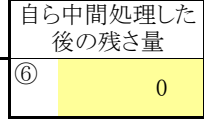
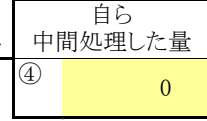
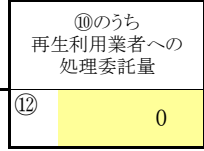
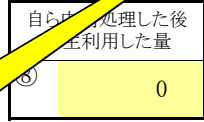
排出量



混合廃棄物の場合、余白に混合の廃棄物種類を割合の多い順



排出事業場の所在地の地域コードを記入してください。(コード表)



項目	実績値
① 排出量	50
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0
⑤ 自ら熱回収を行った量	0
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0
⑩ 全処理委託量	50
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	0
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0

